

へるす・りさーち

名古屋市衛生研究所だより No. 12

『はしかのようなもの』と侮るべからず

麻疹（ましん）のはなし

◆ 麻疹は怖い感染症

麻疹は日本全国で毎年 10～20 万人が罹患し、100 人近い方々が命を落としている恐ろしい病気で、世界的に見ても発展途上国を中心に年間 100 万人（WHO 推計）が亡くなっています。今年も年が明け、やがて早春から初夏にかけて麻疹の好発時期を迎えます。今回は麻疹の特集です。

◆ とても強い感染力

麻疹はウイルスによる疾患で、基本的に大きな飛沫（咳やくしゃみに伴うしぶき）を介してヒトからヒトへ感染します。感染力の最も強いものの一つで、発症率が高く、不顕性感染がほとんどない（感染したらほとんど発症する）疾患です。潜伏期を経て、発熱、咳、鼻汁、または結膜炎にて発症し、その後発疹が出現します。発疹出現の 4 日前から出現後 4 日目までは感染性があります。下の表に麻疹の特徴をいくつかあげま

表 1 麻疹についての概略

病原	麻疹ウイルス
感染経路	飛沫（ひまつ）による感染
好発年齢	乳幼児だが、成人にも感染する
好発時期	通年見られるが晩冬～初夏に多い
潜伏期間	9～12 日間程度
症状	発熱、咳、発疹、結膜炎など
経過	1 週間から 10 日は症状が続く
合併症	肺炎、脳炎、中耳炎、下痢など
治療	対症療法および抗生剤の投与
予防接種	1～2 歳で接種するのが望ましい

したが、気をつけなければいけないのは種々ある合併症です。約 30% の患者が一つ以上の合併症を起こすと言われています。中でも乳幼児の脳炎や肺炎は重症化して死亡したり、障害を遺したりしますので、治りきるまで慎重な経過観察が必要です。

名古屋市でも集団発生

感染力が強いため、学校や保育所など集団生活を営む施設でしばしば集団発生を起こします。実際この名古屋においても集団感染が起こっており、表 2 のように、規模の大きい事例も見られました。市民生活にとって脅威と言っても過言ではありません。

表 2 名古屋市で起きた最近の集団感染

平成 12 年 3 月	保育所で集団発生。患者 31 名。患者の妹が二次感染を起こし、肺炎で死亡した。
平成 13 年 5 月	保育所で集団発生。患者 6 名。そのうち 2 名の罹患児童から母親に麻疹が感染。患者 6 名は全員が予防接種を受けていなかった。
平成 13 年 6 月	高等学校で集団発生。患者 14 名。肝機能低下などの合併症で 3 名が入院。患者の家族への二次感染も発生した。

アメリカではほぼ「撲滅」

このように、麻疹は警戒されなければならない感染症ですが、日本においては欧米諸国と比べて軽視される傾向にあります。

古くから「はしかにかかったようなもの」といった比喩的な言い回しが使われます。これは「はしかは誰もが一度はかかる大したことの無い病気」というイメージを我々日本人に与えていないでしょうか。

一方アメリカは麻疹対策の先進国です。米国では1歳～15か月と、4歳～6歳時に「2回」のワクチン接種を義務化しており、この数年間の発生は年間百人に達しないのです。しかも発生の多くは外国から持ち込まれたケースで、そのため日本などは「麻疹輸出国」だとして非難されています。「カギ」はとも 予防接種 が握っているようです。

『文明国としての緊急事態』

昨年の7月、日本小児科学会が中心となって国（厚生労働省）に要望書を提出しました。その中で、日本の麻疹発生の現状を「文明国としての緊急事態」だとし、医師や保健婦らの努力だけでは限界があるため、「罹患者の95.1%が予防接種未接種であり、流行の実態は接種率の低さによる。国の政策の強化が必要」と述べています。

具体的な施策としては、「1歳6か月健診におけるワクチン接種勧奨の強化」や、「学校の協力を求めるための指導を強めること」などが提言されています。

日本の接種率は80%程度

麻疹の予防接種を受ける子どもの率はそれほど低いのでしょうか？

接種すべき対象者の算出法が自治体によって多少異なるため厳密な数値はわかりませんが、2000年の接種率は80%前後とされています。この率だけを見るとそんなに悪くないと思われるかもしれませんが、問題は年齢段階ごとの接種率です。国立感染症研究所が平成12年度の18都県のデータを調査したところ、1歳児（12か月～23か月）の接種率はなんと45%に過ぎま

せんでした。この数字は、麻疹発生のピークが0～1歳台にあることと明らかに照応しているのです。

日本ではかつて1989年から93年の間にMMRと呼ばれた麻疹・おたふくかぜ・風疹の混合ワクチンが使用されていましたが、無菌性髄膜炎が多発したため中止となり、翌94年には予防接種法の改正で義務的接種が「任意」へと転換した経緯があります。日本はまだ副作用（副反応）への危惧から抜け出せないでいるのかもしれませんが。

目標は95%（健やか親子21）

現在、2010年に向けて国および自治体は健康行動計画「健康日本21」を進めています。その母子保健版にあたる「健やか親子21」においては、1歳6か月までに麻疹の予防接種を終了している者の割合を95%に引き上げる目標を掲げています。日本小児保健学会も「お誕生日には麻疹ワクチンを！」と呼びかけるなど、各団体が連携して取り組みを強めています。《早期の接種率を高めれば麻疹は流行しない》ことはアメリカの成功例が端的に語っています。

今年、当衛生研究所では、市内の保育園を対象として麻疹の発生状況とワクチン接種との関連について調査を行う予定です。集められたデータをもとに、接種率を向上させる具体的な方策を検討します。そして保育園側と協議しながらより効果的なキャンペーンを考え、実施したいと思います。

麻疹を撲滅しましょう



お誕生日
お祝いしたら
早めに
麻疹予防接種を！